

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取県立倉吉農業 高等学校

重点項目	県外生徒募集	提出日	令和3年5月11日
------	--------	-----	-----------

1 学校目標	
<p>農業教育をはじめとして、あらゆる教育の場において豊かな感性を育て、基礎基本を大切にして知の修得に努め、自らの可能性を信じて不断の努力を惜しまない生徒の育成を図るとともに、地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>1. 基礎・基本の定着と学力の向上 2. 基本的生活習慣の確立 3. 地域連携と特色ある教育活動 4. 進路意識の向上と進路保障 5. コミュニケーション能力の向上 6. 業務改善の取組</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>1. 各科の魅力づくりや地域・企業との連携・発信、各種資格取得等を進め、農業の魅力を県内外に発信する。</p> <p>2. 魅力ある授業や広大で特徴のある施設等を知ってもらうため、異世代との交流や学校施設の開放を進め、地域に対しての交流(内容)を充実させ、本校の理解につなげていく。</p> <p>3. 中学生一日体験入学、中学校教員農業体験を実施すると共に、大阪・東京で実施される移住定住イベントに参加し、県外にも本校をアピールする。</p> <p><数値目標>※県外中学生が魅力を感じる具体的指標</p> <p>1. 資格取得の延べ合格者数 300 名以上</p> <p>2. 難易度の高い資格の合格者前年度以上</p> <p>3. 異世代との交流会参加者の確保及び内容の充実、参加延べ人数 100 人 ※昨年度までは年間の回数を目標としてあげていたが、時間外業務の増加の観点から変更した。</p> <p>4. 学校施設開放に 30 名以上参加</p> <p>5. 中学生体験入学(中学生参加) 200 名以上</p> <p>6. 中学校教員農業体験(農業体験者) 20 名以上参加</p>	<p>1 県内外を通じて多くの行事や取組について取材を受けメディアに発信できた。また、今まで以上に資格取得を積極的に奨励し、実際に多くの生徒が取得できたのは大きなアピールになった。</p> <p>2 新型コロナウイルス感染症拡大により、事業の中止や縮小をせざるをえなかった。その中で可能な限り交流は行い地域に対して学校の紹介や農業高校に対する理解は進んだ。</p> <p>3 体験の場を設けることで中学生や中学校教員に対して学校理解を促進することができた。また、地域みらい留学フェスタ(オンライン開催)に参加し、中学生や保護者に対して学校をアピールすることができた。(県外入学生6名)</p> <p><数値結果></p> <p>1. 資格取得者延べ263名(目標値を達成できなかった一番の要因は、新型コロナウイルス感染症による資格試験の中止による。)</p> <p>2. 高難易度の資格取得(農業技術検定2級1名、測量士補1名、危険物取扱者乙種2名、アグリマイスターシルバー4名・ゴールド3名・プラチナ1名等)</p> <p>3. 異世代交流70人(はなの学校のみ実施、おうまの学校、田んぼの学校は中止)</p> <p>4. 学校施設開放(中止)</p> <p>5. 中学生体験入学は中止。代替でオープンスクールを実施し112名が参加(生徒、教員、保護者)</p> <p>6. 中学校教員農業体験は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。</p>

3 実施事業
<p>【学校独自事業】</p> <p>1 農業の魅力づくり発信事業（全学年対象） ワサビやジビエの活用や新商品の開発（食品）、フラワーデザイン競技会への出展、舗装実習等を通して各科の魅力づくりを行う。併せて資格取得を進め農業を学ぶ意欲を高める</p> <p>2 開かれた学校づくり推進事業（2・3年対象） 馬や花を題材に交流し学校を地域交流の場として、生徒のコミュニケーション能力向上や地域の農業理解促進につなげる。</p> <p>3 定員充足推進事業 中学生一日体験入学の実施。</p>
4 総合所見（成果・評価）
<p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため事業を中止あるいは縮小しなければならなかった。感染症対策を十分に行ったうえで、農業高校であることを活かした体験や交流を積極的に行い、多くの地域の人や学校関係者及び中学生に学校を認知してもらおう場を提供できた。また、令和2年度は県内外へラジオ（東京 FM）での広報活動（アピール）や地域みらい留学イベントにオンライン参加したことにより、今春の入学生のうち、6名の県外入学生があり、これまでで一番多く、その効果を実感することとなった。</p>

※枚数任意